明徳地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年７月２５日（金）　１９：００～２０：１５
２　会　場　明徳地区公民館
３　出席者　地元出席者　　４０名
市側出席者　　１２名
深澤市長、羽場副市長、木下教育長、高橋防災調整監、田中企画推進部長、坂本福祉保健部長、中島庁舎整備局次長、高橋秘書課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　地域の重要課題について

１　新庁舎新築移転に伴う、明徳地区のまちづくり計画について

＜地域課題＞

新庁舎新築移転が実現した場合、当地区に対するまちづくりのビジョン等について、計画案等についてお伺いしたい（当地区の街づくり活性化計画書の改定時期と重なる）。

また、直接該当する町内会として棒鼻町内会（９０世帯）があり、新庁舎が移転された場合相当の環境等の変化があると思われるが、この点についてもお聞きしたい。

＜担当部局の所見等＞

【総務部】

明徳地区のある鳥取駅周辺は、合併して広くなった鳥取市だけでなく、県東部において交通の要衝であり、県東部（因幡地域）の核となる重要なエリアと考えています。本市では、昨年１１月に取りまとめた「鳥取市庁舎整備全体構想（素案）」の中で、「駅南庁舎の活用と旧市立病院跡地への新本庁舎の整備」を、市が最も望ましいと考える整備内容として提案しています。これを受けて、現在、市議会の「市庁舎整備に関する調査特別委員会」においては、整備場所も含めて市庁舎整備について審議されているところです。

庁舎整備の方向性が決まり、平成２７年度に事業着手した場合のスケジュールは、本庁舎新築の設計に平成２７～２８年度、工事に平成２９～３０年度の計４年間を想定しています。考えられる影響は、

・棒鼻町内会館の取り扱い
・交通量の変化

などで、関係地区の皆様と協議させていただきながら進めてまいりたいと考えます。

（庁舎整備局次長）

明徳地区のある鳥取駅周辺は、合併して広くなった鳥取市だけではなく、県東部の交通の要衝であり、また県東部、因幡地域の核となる重要なエリアであると考えています。鳥取駅がまだ高架になっていなかった頃は、久松山と駅の間が中心地でしたが、昭和５３年の駅の高架化により駅の南北が一体化し、まちが南側に大きく広がりました。これにより、

鳥取市の中で駅が中心的な位置になったと言えます。このようなまちづくりの観点を踏まえ、昨年１１月に取りまとめた「鳥取市庁舎整備全体構想（素案）」の中で、市として最も望ましいと考える整備内容として、費用を抑えるための駅南庁舎の活用と、旧市立病院跡地への新本庁舎の整備を提案させていただいています。

これを受け、現在、市議会の「市庁舎整備に関する調査特別委員会」において、整備場所を含めた審議をされています。市議会としては、９月定例議会に最終報告をまとめるという予定を立てておられます。

庁舎整備の方向性が決まり、来年度から事業に着手した場合、本庁舎の新築の設計には平成２７年度から２８年度の２か年、工事には平成２９年度から３０年度までの２か年、合わせて４か年かかると想定しています。明徳地区のまちづくり計画の改訂の時期と伺っていますので、今後、情報提供や意見交換をさせていただけたらと考えています。

また、新築移転の場合の環境の変化および考えられる影響としては、棒鼻町内会の町内会館に関する取り扱いや、人や車の交通量の変化による影響などが考えられます。いずれにしても、今後時期を逸することのないよう、関係地区の皆様と協議させていただきながら進めていきたいと考えています。

（地元意見）

１２月に市議会議員が変われば、特別委員会も新しくなります。そうすれば結論が出るのが１年か２年延びる可能性があります。今の特別委員会で議決し、９月議会に出さなければ、平成２７年度には着工計画はできないのではないでしょうか。９月議会に出すのか出さないのか、市長はどのように考えますか。

（深澤市長）

鳥取市議会の庁舎特別委員会においては、耐震改修という選択肢はないというところまで整理され、現在は新築する場所について様々な視点から検討を重ねておられるところです。現在の鳥取市議会議員の任期は本年１２月１６日までですので、最後の定例議会は、これから迎える９月議会になります。特別委員会の方もそのことを念頭に置かれ、９月議

会において特別委員会として一定のまとめをされるとお聞きしています。従って、来たる９月議会というのが、この庁舎問題の１つの大きな山場になると考えています。この問題をこれ以上停滞させたり、長引いて議論をいたずらに重ねていくというようなことはもう許されないと考えています。その大きな理由として、非常に有利な制度である合併特例債の適用の問題があります。合併特例債は、５年間のうちに事業を完了し庁舎を完成させなければ使えません。設計に２年、工事に２年と、単純に考えても約４年程度を要するとみられますので、もう待ったなしと考えるべきです。私自身は、現在地の古い本庁舎を耐震改修するという選択は正しくないと思っています。位置条例も含めて、速やかに収束を図っていきたいと考えています。

２　災害時要援護者の昼間における救助体制について

＜地域課題＞

当地区では各町内会に自警団組織があり、火災、地震の災害時等における自衛体制をとっている。しかし団員は昼間勤めに出ているため、災害時の救助体制ができない状態となっている。在宅者は、高齢者が大半を占めているため充分な救助体制ができないのが現状であり、地区としても対応に苦慮している。このような状態は当地区のみではないと思われるが､行政としてこれらの問題についてどう対応されようとしているのかお聞きしたい。

＜担当部局の所見等＞

【福祉保健部】

本市では、災害時に、ひとり暮らしの高齢者や障がい者などの避難する際に支援が必要な方々が、地域住民の皆様の相互の助け合いにより支援を受けることができることを目的とする､「災害時要援護者支援制度」を平成１８年３月から推進しています。明徳地区も平成２１年度に取り組まれ､平成２６年３月末で１５３名の方に登録していただいています。

地域の皆様には、要援護者に対して、災害情報の伝達や安否確認等の支援を行っていただく支援者の選定、日頃の見守り活動等でお世話になっています。

災害発生直後の緊急時には、地域の自主的な避難行動がきわめて重要であることは過去の大規模災害の被害状況からも明らかとなっています。要援護者の避難方法について、あらかじめさまざまな想定をしておくなどの対応が可能であるとも考えます。また、行政と地域とで情報を共有することも、要援護者を支援する上で重要となります。

市では、災害発生時に要援護者名簿を活用し、

・支援団体との連絡・調整
・避難情報の伝達
・安否確認、避難状況の把握
・避難所での身体的、精神的な配慮

などの支援に努めていきたいと考えます。

地域の中で、登録が必要と思われる方の制度への登録をさらに進めていただきたいと思います。

【防災調整監】

災害対策は、平常時からの予防対策と、災害時の応急対策に分けることができます。

予防対策としては、防災マップの作成等の地域の取り組み（共助）とともに、日頃から各家庭で家具を固定したり、避難場所の確認や周辺の危険個所の把握等をしておくこと（自助）が重要です。本市では防災コーディネーターを２名配置し、地域の防災研修会等に派遣するとともに、防災リーダー研修を開催して地域の防災リーダーの育成や市民の防災意識の向上を図っています。

応急対策としては、従来の自主防災会連合会補助金に加えて、今年度より自主防災会防災資機材整備補助金を創設するなど、地域の防災体制基盤の強化や地域防災力の向上も図っています。

災害の恐れがある時は、各個人が早めの避難、避難所に移動するだけでなく確実な避難行動をとることが必要です。

さらに、被害を最小限に抑えるためには、地域の支援協力体制も不可欠です。その中で、地域のリーダーの役割を果たす人の存在も重要となります。

本市では本年４月から避難支援の参考となる防災情報を地域に確実に届けるため、各自主防災会長や消防団の班長以上を対象に「とっとり地域ぼうさいメール」の配信を開始し、防災における情報提供を行っています。

今後も、的確な防災情報の発信や自主防災会の活動を支援する取り組みを進めていきたいと考えていますが、地域の実態に即した隣近所での見守りや助け合いを基本として対応いただきたいと思います。

（福祉保健部長）

「災害時要援護者支援制度」は、一人暮らしの高齢者の方、高齢者だけの世帯、あるいは障がいをお持ちの方の中から、災害時に地域の皆様の協力が必要な方を登録していただいています。その名簿には、緊急連絡先、疾病情報、かかりつけの病院、服薬情報、日常の支援者などが記載してあります。明徳地区においては、平成２６年３月末で１５３名の方に登録していただいています。この名簿は、災害時に安否確認や支援状況などを確認する際の資料となります。

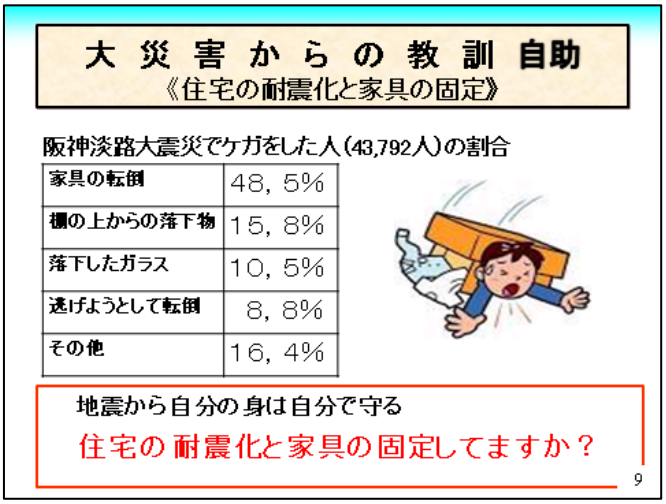
地域、市、また援助団体等と一緒に、要援護者に対する支援を行っていきましょうという制度ですので、今後も１名でも多くの方に登録していただくよう、ご協力をお願いします。

（防災調整監）

災害が発生した時には、まず自らの身を守っていただくことが第一になります。そのためには普段から、家具の転倒から身を守るために家具を固定しておく、避難場所や危険箇所を確認しておく、水や食糧などを備蓄しておくといったことや、火災であれば平成２３年に義務化された住宅用火災警報器を設置されるなどの予防対策をとっていただくことが大切です。

また、市からも情報伝達を行ってはいますが、自ら身を守るための情報を入手していただくことも大切です。

自分の身を守れなければ、周りの人を助けることもできません。自分の身を守り、次の段階として初めて、家族や地域の方を助けたり相互に助け合うとことができるということになります。



それぞれの地域では、防災会を作りいろいろな取り組みをされていますので、市としては地域の防災力の向上を目的として可能な限り支援をさせていただいています。例えば「防災リーダー研修会」では、災害、気象や救命救急についての講習などを受けていただき、防災リーダーとして登録させていただいています。このような方に、地域における防災のキーマンになっていただき、その方を中心にして地域でのいろいろな取り組みをお願いしたいと考えています。

地域の実態に即した見守り、助け合いなどを基本として対応いただければと考えます。

（地元意見）

昼間、若い人が勤めのために地域にいないことについて、例えば、地域にある事業所などに助けてもらえるよう行政から働きかけるなど、行政が何かできないかということが聞きたいのです。

（防災調整監）

日中、支援者となる若い人が地域におられないというのは全市的な問題だと思います。例えば、昼間の災害の場合には要援護者を背負って救助できる人がいないということで、自主防災会防災資機材整備補助金を利用して、リヤカーを購入されている町内会もあります。

昼間の支援者がいないということがあらかじめ分かっているのであれば、それも踏まえ、地域の実態に即した方法を皆様で考えていただきたいと思います。

（地元意見）

災害の恐れがあるときは各個人が早めに避難所に移動しなさいとありますが、例えば明徳小学校や公民館には、夜間は誰もいません。早めに避難しようと思っても、どこも開放されていません。避難勧告が出なければ開放されないと思います。勧告が出る前に避難したい場合はどうしたらよいのですか。

（防災調整監）

地震などのように突然発生した災害については、たしかに避難所の準備が遅くなる場合

もあります。しかし、川が増水してきた、あるいは台風が近づいてきているといった風水害については、ある程度今後の予測ができるようになってきました。仕組みとしても、避難勧告の前に「避難準備情報」を出せるようにもなっています。避難準備情報を出すことになれば、市としても避難していただく予定の避難所の準備、開放についてすぐに対応していきます。

（地元意見）

「とっとり地域ぼうさいメール」は、「あんしんトリピーメール」とは別のものですか。

（防災調整監）

「とっとり地域ぼうさいメール」は、各地区の自主防災会会長さんや消防団の方といった、地域に対して周知活動をしていただきたい方に対して、避難準備情報や災害の発生予測情報などをメールで配信するシステムです。本年４月から始めた市のシステムであり、「あんしんトリピーメール」とは別のものです。なお、自主防災会の総会でもご案内しています。

３　明徳小学校区の再編の問題について

＜地域課題＞

平成２０年度の地域づくり懇談会において、「明徳小学校区」の見直しについて質問したが、その後の当地区校区再編について、どのような審議がなされているのか経過等をお聞きしたい。

＜担当部局の所見等＞

【教育委員会】

校区再編につきましては、地域や保護者の声を配慮したうえで行っています。なお、市内全域を対象に進めている学校のあり方の議論におきましては、学校を核とする地域全体で、保護者や地域の様々な思いを集約していく「組織づくり」をお願いしているところです。

当地域は、平成２５年１月に第１１期校区審議会が示した「中間とりまとめ」において、「通学路に危険がある」「地区から要望がある」という観点から校区の課題が整理されていますが、市全体の位置付けでは緊急性は高くない状況です。

さらに、平成２５年９月には、当該地域の３町内会より、「地域の共同体意識が強く、祭りや行事を通して児童も地域とつながっており、地域と校区が分断されるのは不適切」といった趣旨で、校区変更に反対する意見書も提出されています。

現在の審議会においては、単にこの地域に限定した議論ではなく、中心市街地全体の課題と併せた検討が必要であり、小規模化による教育上の問題、通学上の子どもの安全面、適正配置の問題等を踏まえ、校区を超えた隣接校との学校・地域・保護者間など様々な連携を視野に入れながら議論が進められているところです。

（教育長）

校区再編については、地域の子どもたちの教育はどのような姿が良いのか、そのためにどのような学校が良いのかといったことについて、保護者や地域の皆様のさまざまな思いを集約していく、いわば「地域の教育を考える会」のような組織づくりを全市的に行いながら議論を進めています。

当該地域については、平成２４年に要望書をいただきましたが、平成２５年１月に第１１期校区審議会が示した中間とりまとめにおいて校区の課題が整理された結果、市全体の位置付けとしては、緊急性は高くないとされました。

また、平成２５年９月には、当該地域の３つの町内会から、「地域の共同体意識が強く、祭りや行事を通して児童も地域とつながっているので、地域と校区が分断されるのは不適切である」という趣旨で、校区変更に反対する意見書も提出されています。

現在の審議会においては、単に地域に限定した議論だけではなく中心市街地全体の課題と併せた検討が必要であるとの認識から、規模や通学、あるいは適正配置といった問題を踏まえて、校区を超えた隣の学校との連携なども考えながら議論が進められているところです。

（地元意見）

校区編成は、するのであれば全市一斉にするのですか。

（教育長）

一斉にできればそれに越したことはないと思いますが、校区再編は必要ないと言われる地域もあり、考え方は地域によってさまざまであるため、一斉にはできません。校区再編は、地域や保護者の皆様、そして将来親になる方が、理解し納得されて進めていくものだと考えています。

５　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

鳥取市の人口は、合併時には２０万１千人でしたが、１０年経って１９万３千人になりました。１０年間で８千人減りました。今後中核市を目指すとのことですが、これだけ人口が減少をしていく中で、何を考えても何をしても進歩する余地がないように思えます。人口が増加する方法を、何とか早く考えてください。また、中核市を目指すために人口を増やす必要があると思いますが、そのようなことが果たしてできるのかどうか、実際に市内を目で見て確認してください。１０年先のことを思いやると、心配になります。

（深澤市長）

人口問題については先般、「２０４０年には日本の自治体のうち半分程度が消滅の危機に瀕するのではないか」といったことが発表されました。これは、今何もしないとそういうふうになるという警鐘だと考えるべきだと思っています。地方の人口が減る一方で東京を中心に大都市の人口は増えていく、また少子高齢化が進み、特に地方都市では著しく人口が減少していくといったことが心配されています。

この中で、鳥取市は中核市を目指そうと考えています。中核市になるためには、人口が

３０万人以上であることが要件でしたが､国の法律が改正され２０万人以上となりました。さらに、特例市に指定されている場合は、人口が２０万人を切っていても５年間は中核市を目指すことができるようになりました。鳥取市が中核市になり人口減少を何とかくい止め、さらには人口増加を図り将来に向けて発展していく。また鳥取市だけではなく鳥取市を中心とした東部圏域が発展していく、そういった将来を目指しています。それには、やはり人口減少をどのようにしてくい止めるかを考えていく必要があります。まず若い方に鳥取市に定着をしていただいて活躍をしていただきたい。それには働く場所を作っていかなければいけません。また、若い方に鳥取は魅力があると思っていただけるようなまちでなければなりません。そのためには子育てがしやすい環境の支援など、さまざまなことを行っていく必要があります。皆様と一緒になって知恵を出し、力を合わせてそういったまちを築き上げていきたいと思っています。

（地元意見）

明徳地区公民館は、平成１１年に増築されました。その時にトイレを２つ造っていただきましたが、狭くて苦情がありますし、和式のトイレがとても使いづらいです。１階には障がい者用の洋式トイレがありますが、高齢者にとって、やっと２階まで上がったのにまた１階まで降りるのはとても大変です。２階のトイレを洋式のトイレにしていただきたいです。

また、１階のトイレは男女一緒で男便所と女便所と障がい者用の洋式が１つあります。現在、男性用と女性用を仕切るためにカーテンをしていただいています。しかし和式のため、女性用の奥のトイレはとても狭いです。何とかトイレの問題を解決してください。

（深澤市長）

来年度、１階トイレの男女別化の改修を実施予定ですので、その工事に含めて洋式化も進めていきたいと思います。ただし２階トイレについては、平成１０年に改修したということもあり、今の時点では難しいと思います。まずはできるところから取り組みたいと思います。

（地元意見）

明徳小学校の洋式トイレは、男子トイレと女子トイレに１つずつしかありません。生活様式の変化により各家庭でもトイレを洋式化されています。子どもたちもその生活になじんでいるため、今の状況では学校に行くのをためらう子どもがいるのではないかと思います。また、衛生上好ましい状態とは言いがたいと思います。

（教育長）

児童の安全を確保するため、平成２７年度までは校舎の耐震補強対策を最優先にしています。トイレの改修については、平成２８年以降、老朽化の激しい学校から年次的に取り組みたいと考えています。

（地元意見）

現在、明徳小学校には冷房が５台設置されていますが、児童の教室にはありません。最近は地球温暖化の影響で暑さが増しています。市はどのように考えているのでしょうか。

（教育長）

最近の猛暑や生活の変化により、空調設備の整備は急務だと考えています。しかし、学校における設備の整備や運用には、家庭用の設備と比較しても多額の経費が必要となります。そのため今年は、中学校の一部の教室について先行して整備を行っています。小学校を含めたその他の計画については、現在実施している整備の効果を十分検証し、また他の事業との調整などの財政状況等も考慮しながら検討していかなければいけないと考えています。

（地元意見）

先日、私の近所の独居の方が亡くなられ、警察が検死などをされました。亡くなられてから現在までの間、その家からかなりの悪臭が漂っています。町内会長から市へ対策を依頼していただきましたが、土地や建物の所有者の承諾なしに動けないとのことでうやむやになっています。消毒など、市として何らかの対策をしてください。

（福祉保健部長）

ご質問の件に関しては、人物の特定のためのＤＮＡ鑑定や検死のための現場検証などが必要であったため、警察の事後処理に時間がかかったようです。市としては、家族に連絡を取り、物品の整理や衛生面での対策をお願いしています。

個人所有の家でこのような事態が発生した場合に、どのような対策を取るべきかということについては、どこの自治体も苦慮しているのが現状です。自治体が実行できる対策について一定の指針を出していただくよう、現在国に質問をしているところです。

感染性の細菌が発生するということになれば行政として対応しますが、今回の状況であれば、引き続き家屋の所有者に対して、衛生的な部分を改善していただくようにお願いしていくしかありません。

（地元意見）

今後、国道２９号線の南側はますます開発されていくと思います。これに合わせて、鳥取地域の中学校区を根本的に変えていただきたいと思います。

南中学校の校区は、美保、美保南、倉田そして日進です。提案ですが、南中学校を宮長か的場の辺りに移転し、校区を美保と美保南と米里にして、倉田を江山中学校に、日進を西中学校に校区変更してはどうでしょうか。

米里は現在桜ヶ丘中学校の校区ですが、桜ヶ丘中学校は南中学校と同様にマンモス化していますから、米里が南中学校に行けば桜ヶ丘中学校のマンモス化も解消します。

日進を西中学校に変更する案についてですが、西中学校の生徒数は現在約３００人です。今後１０年先も、西中学校の生徒数が増えることはないと聞きました。生徒数が少ないから、したい部活もできないという声も聞いています。対して南中学校の生徒数は、今後９００人を超すことが想定されています。国道２９号線の南側が開発されれば、９００人ど

ころではなく１，０００人以上になります。西中学校に日進が加われば生徒は増え、反対に南中学校の生徒もゆったりと教育が受けられます。

校区審議会は、１０年後、２０年後のことを考えるべきです。

（教育長）

南中学校の生徒数の問題については認識をしており、何とかしなくてはいけないと考えておりますが、ご提案のように多くの学校を巻き込んだ再編となると、非常に難しい部分が出てきます。校区審議会ではこの件について審議中ですので、今のところ私がお答えすることはできませんが、状況については十分把握しています。

（地元意見）

今後人口が増えていくと考えられるのは、桜谷から宮長辺りにかけた鳥取市南地域だと思います。そうなると、南中学校の問題は放っておけないと思います。

（深澤市長）

校区再編等についても、将来に向けていろんな状況が変わっていくことを念頭に置いて議論していかなければならないと思っています。いただいたご意見も踏まえて、将来を見据えて検討していきたいと思います。

６　市長あいさつ

今日は防災、校区再編、人口減少の関係など、いろいろお尋ねをいただきました。また公民館、小学校のトイレの改修等々についてもご要望いただきました。なかなかすぐには対応させていただけないようなところもあろうかとは思いますが、今日いただいたさまざまなご意見、ご提言を踏まえ、今後できるところからしっかりと対応させていただきたいと思っております。

庁舎問題につきましても、９月議会をにらみ、何とか解決に向けて皆様と一緒になって取り組んでいきたいという思いでおります。

限られた時間でありましたが熱心にご議論いただき、また暑い中でご参加をいただきましたことに対しまして、重ねて心より感謝を申し上げまして、閉会にあたりましてのお礼のご挨拶に代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。